

令和 8 年度水戸地区産業安全衛生大会を開催しました

令和 8 年 9 月 4 日（金） ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホール

参加者 139 名

～ ひとりひとりが貴重な人材 心も体も健やかに みんな生き生き健康職場 ～

第 77 回を迎える全国労働衛生週間を前に、9 月 4 日（金）、ザ・ヒロサワ・シティ会館 小ホールにおいて、令和 8 年度水戸地区産業安全衛生大会を開催しました。

第 1 部では、水戸地区労働災害防止部会の柳橋部会長による 開会のことば の後、水戸労働基準協会の柳生会長より 主催者挨拶 が行われました。柳生会長からは、職場における安全衛生活動に加え、安全に対する考え方を共有する場を持つことで、地域全体の安全文化を高めていくことへの思いが述べられました。続いて水戸労働基準監督署の中村署長、水戸公共職業安定所の山口所長より来賓挨拶をいただき、大会の趣旨に対する期待と励ましのお言葉を頂戴しました。

なお、本大会は水戸労働基準監督署よりご後援、ご協力をいただき運営に際して格別のご支援を賜りました。

<第 1 部>

○ 開会のことば



柳橋部会長

○ 主催者挨拶



柳生会長

○ 来賓挨拶



中村署長



山口所長

次に、日頃より職場の安全衛生の向上に積極的に取り組まれている事業場様に対し、水戸労働基準協会長より安全衛生優良事業場賞が授与されました。本年度は 株式会社計装機器製作所様、東興機械工業株式会社東海事業所様の 2 社が受賞されました。

○ 水戸労働基準協会長表彰

【安全衛生優良事業場賞】



株式会社計装機器製作所様



東興機械工業株式会社 東海事業所様

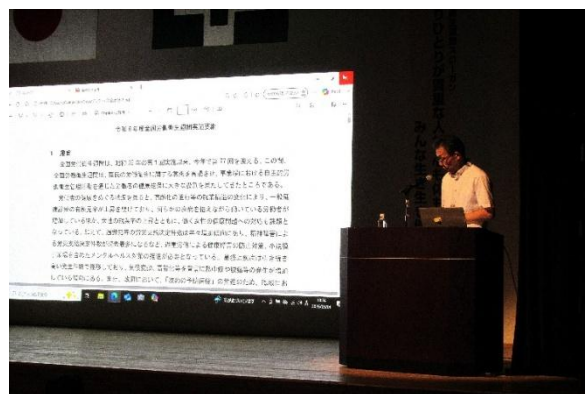


(株)計装機器製作所様

東興機械工業(株)様

○ 全国労働衛生週間実施要綱等の説明

続いて、水戸労働基準監督署の山田安全衛生課長より全国労働衛生週間（10月1日～7日）及び準備期間（9月1日～30日）に事業場が取り組むべき事項などについてスライドを用いて説明いただきました。



山田安全衛生課長

○ 特別講演

今回は、国鉄から JR 東日本で、長く運転保安システムや安全対策に携わり、現在も「安全の語り部」として社員の教育などにご活躍されている片方喜信氏にご講演を頂きました。ご講演の内容を報告します。

1987 年の JR 発足以来、JR 東日本では、把握した事故データの活用を基礎にして「安全を先取る」「科学的にモノを見る」ことを基本に、これまで安全対策を進めてきました。「安全を先取る」とは、従来の事故の後追いから脱却し、未然に予兆を捉えて事故の芽を摘み取る取組みで、「CS（チャレンジ・セイフティ）運動」と名付けて、社員が安全について考え、議論し、行動する安全活動を進めています。「科学的にモノを見る」とは、Man（人） Machine（装置）Media（ルール・環境）と、その連携を図る Management（マネジメント）の「4M」の観点と、初めて、変更、久しぶりの「3H」の要素から事故（事象）の発生要因を分析して対策を立てています。分析の目的は責任追及ではなく原因究明であることを明確にしています。



さて、近年、事故の減少や装置の自動化に伴う異常時の経験不足など、これまでの対策が新たなリスクを産み出しています。急速な世代交代、技術進歩、アウトソーシングの進行による新たな種類の事故の可能性も高まっています。そこで近年重点的に取り組んでいるのが、「想定外も想像する」活動です。社員一人一人が想像して思い描ける範囲を広げるためには、事故に学び、仕事（安全）の仕組みの本質を理解し、安全の4Mなど災害を科学的に捉えるスキルを磨き、3H（初め



て、変更、久しぶり）、他の職場、他社や他国の事例、新技術の導入、業務領域の拡大などの要素も広く俯瞰して、気づきを増やしていく活動が効果的だと考えています。さらに、気づきを増やすために、「うまくいっていることにも着目する」活動を実施しています。具体的には、軽微な「マイ・ヒヤット」を広く取り上げる方法があります。事例ごとに①なぜ失敗を回避できたのか②なぜ事前に気づいたのか③なぜうまくできたのかを皆で集まって話してみ、気づきを得ます。「特別なことでなく、当たり前のこと」と思っている行動に「理屈」や「暗黙知（工夫やコツ）」があることに気づくのです。それを皆で共有できれば、経験不足を補うことができるという訳です。このような話題は、話しやすく、議論が発発になるし、ポジティブな気持ちになれる。共有することで普段の自分の動作に自信が持てる効果があります。

これからは、失敗を減らす対策と併せて、成功を増やすための行動を進めて「よりポジティブな安全マネジメント」を目指していくことで、安全な職場を築いていきましょう。

長く鉄道の安全に最前線で取組んでこられた片方先生、貴重な講演をありがとうございました。なお、先生のお話にあった「うまくいっていることに着目」に関して、JR 東日本様のホームページに「うまくいくための工夫・コツ」抽出・共有支援ツール が掲載されていますのでご覧ください。



○ 大会宣言

第 1 部の最後には水戸地区労働災害防止部会の竹原副部長より大会宣言が読み上げられ、参加者の皆さまより拍手で賛同をいただき採択されました。



竹原副部会

<第 2 部>

○ ミニコンサート

第 2 部は、ご参加の皆さまに心身ともにリフレッシュしていただくひとときとして、ミニコンサートを企画しました。演奏を披露したのは、安全衛生大会ではお馴染みとなった ひたちなか市で生まれた 18 名編成の本格的な社会人ビッグバンド B ト레인・ジャズ・オーケストラ。



本年は「哀愁のボサノバ」と題したステージが披露されました。ボサノバの軽やかで心地よいリズムに乗せて、しっとりとした曲からラテンのリズミカルなナンバーまで幅広い楽曲を演奏。会場は心地よい音楽に包まれ、参加者の皆さまには日頃の疲れを癒し、心身をリフレッシュしていただくひとときとなりました。

哀愁のボサノバ

Masquerade (マスカレード)
Recado Bossa Nova (リカードボサノバ)
How Insensitive (お馬鹿さん)
Meditation (瞑想)
Brasilia (ブラジリア)
Latin Dream (ラテンドリーム)
O Pato (ガチョウのサンバ)
Agua de Beber (おいしい水)
Jazz N Samba (ジャズンサンバ)



○ 閉会のことば

大会は、水戸地区労働災害防止部会の中村幹事の閉会のことばをもって終了しました。

多くの皆さまにご参加いただき、今年度の産業安全衛生大会を無事に開催することができました。来年度もより多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



中村幹事

今回の大会では参加者の皆さまからご意見をお寄せいただくためアンケートを実施しました。皆さまから貴重なご意見をいただき、今後の大会運営に向けた参考となる声をいただきました。いただいたご意見を大切にし、より多くの皆さまに参加していただける大会となるよう、今後の企画・運営に活かしてまいります。